

## ソーシャルインクルージョンについて

恩賜財団済生会理事長  
ソーシャルファームジャパン理事長  
炭谷 茂

### 1 深刻化する日本の人権状況

古くからある問題は、解決されず、さらに深刻に。新しい問題は次々に起きる。

#### (1) 古くからある問題

障害者の社会参加

精神障害者の就業率の低迷

イタリア・トリエステのバザール改革

精神疾患患者を外来治療へ、働く場を作る。

日本は 30 年以上遅れている。

刑余者の社会への壁

再犯を繰り返す受刑者

高齢者、知的障害者の増加

済生会は、山口刑務所での介護職員実務者研修の実施

28 年 12 月、再犯防止推進法の成立

被差別部落に対する根深い差別

28 年 12 月、部落差別解消推進法の成立

同和問題への無知識、無関心

結婚差別、就職差別、土地差別の発生

就職差別撤廃東京実行委員会委員長としての経験

差別につながる面接での質問

被差別部落の環境の劣悪化

インターネット版の部落地名総鑑

昭和 10 年の資料を基に

#### (2) 新しい問題

高齢者の介護の困難性

認知症高齢者の増大

単身住まいの増加

孤独死、無縁死の増大

児童虐待の急増

加害者が男性も

被害状況の深刻化

欧米と類似化

ホームレスの若年化

野宿生活者は減少したけれども高齢化、長期化

ホームレスと自覚しないホームレスの増加

新型コロナで急増

ホームレスから脱却後、貧困ビジネスの罠に

## 2 これらの問題の背景にある最近の経済・社会の構造変化

### (1) 家族、親族、地域の絆の弱体化

社会的弱者が社会から孤立・排除される。

以前は生まれた時からムラ社会の一員に

### (2) 貧困の増加と蓄積

高齢者、ニート、母子家庭、障害者など

貧困の子への承継

東京都足立区、大田区の調査、お茶の水女子大学研究者の研究

健康、学力に大きな格差

### (3) 他人との濃厚な関係を嫌う社会心理が広がる。

情報化社会の進展の結果

## 3 このような構造変化は、世界共通し、同じ問題に直面している。

### (1) 1990年代 フランス、イギリス、ドイツ等で社会的排除が進む

若年失業者、障害者、貧困者、外国人、薬物依存症、ホームレスなど

以前は教会を中心に助け合っていた社会

この問題を解決するために「ソーシャルインクルージョン」(社会的包摂)の理念が登場

国家の基本政策に

フランス、ドイツ、イタリア等 法律の制定

イギリス 総理直轄の組織  
EU アムステルダム条約制定

今や世界の理念となる。

SDGs (国連の持続可能な開発目標)  
障害者権利条約

(2) 2000年1月イギリスで初めて学ぶ。

2000年12月 厚生省社会・援護局長の時「社会的援護を必要とする人々  
に対する社会福祉のあり方について」をまとめ、ソーシャルインクル  
ージョンの必要性を主張。しかし、日本では理解が広がらなかった。

(3) 個人的にソーシャルインクルージョンを追及

イギリスのCANを招き、ソーシャルインクルージョン実現の具体的  
方法を学ぶ。

ブロムレイ・バイポーというスラム街の活性化に成功  
社会的企業で仕事創造、住宅建設、保育所・病院の整備  
ロンドンオリンピックは、ソーシャルインクルージョンを理念  
東京五輪にも引き継がれる。

(4) 平成30年12月 国立市ソーシャルインクルージョンを推進するための  
条例を日本初めて制定

あらゆる差別を解消するため

令和2年7月 済生会ソーシャルインクルージョン推進計画の策定

1541事業を計上

#### 4 ソーシャルインクルージョンを具体化させるには

(1) 具体的な事業が必要

啓発活動だけでは困難

仕事、教育、余暇活動の機会等の喪失 ⇔ 社会的排除・孤立

↓

人権問題の根源

(2) なかでも仕事が重要

① 今日の働く場の状況

公的な職場 … 社会的な目的のため、税金が投入されて作ら  
れる職場

一般企業 … 大企業には障害者雇用率が適用

- ② 補完するものとして中間組織としての第3の職場の必要性  
社会的企業  
社会的な使命、ビジネス的な手法 住民が一緒に参加

## 5 その一つとしてソーシャルファームの有効性

### (1) ヨーロッパの状況

1970年代北イタリア、トリエステで生まれる  
当事者の主体的参加がポイント  
賃金等の労働条件は一般人と同様  
一般の住民も働く。

ドイツ、ギリシャ、イギリス、スウェーデン、フィンランド等へ  
1万社以上の存在  
韓国も2千社設立  
今や福祉の枠を超え、経済・社会の1分野を構成  
中間的組織の重要性

### (2) 日本に2千社の設置を訴える。

平成20年ソーシャルファームジャパンを結成  
対象者は2千万人以上。今ではもっと多いのでは。  
障害者、高齢者、難病患者、ニート、引きこもり等の若者、  
刑務所出所者など通常の労働市場では仕事が見つからない者

昨年12月 東京都はソーシャルファーム推進条例の制定  
ソーシャルインクルージョン推進を推進するためと明記

### (3) 日本におけるソーシャルファームの展開

#### ① 大阪市浪速区の「緑の風 西川」

障害者、刑余者がエゾシカの皮でハンドバック製造  
高級なハンドバック。十分な訓練。高度な製造技術  
マタギプロジェクトを発足

#### ② 埼玉県飯能市NPO「たんぼぼ」

精神障害者、長期失業者が 固定種による自然農業

### 耕作放棄地の活用

③ 栃木県小山市「パステル」

知的障害者が桑の葉の粉をクッキー、パン、お茶、そばなどに利用  
行政、農家、工場などの協力  
第6次農産品の指定。平成28年 養蚕業開始

④ 東京都多摩市の「多摩草むらの会」

400人以上の精神障害者による農業、レストランなど  
多摩センター6階で本格的レストランの経営

## 6 教育はソーシャルインクルージョンの基盤

(1) 教育は社会への基礎

ドイツ、フィンランドの福祉国家は、教育が基盤  
大学院まで無償に 社会人入学も活発  
教育による子どもの貧困からの脱出

(2) 学習支援

済生会特養「彩光苑」(埼玉県春日部市)  
県立埼玉大学学生がボランティアで母子家庭の子どもを対象に

## 7 生活支援等

(1) 高齢者、子どもを対象とする食堂

葛飾区で済生会とビルゲイツ財団と共同でこども食堂経営

(2) 高齢者の集いの場所

済生会特養「長和園」でサロンの経営

## 8 ソーシャルインクルージョンは、人とまちを元気にする。

(1) 何よりも人と人との結びつきの形成

多様な人たちが参加、助け合い  
行政、企業、団体、学校などあらゆる組織が参加

(2) まちの活性化

地域活動の活発化、新しい地域産業の誕生  
雇用等経済効果も

(3) 住みやすいまちの実現

人権、多様性が尊重され、平和を目指すまちへ